

2011.4.16「原子力災害 終息の最大の障害は菅総理だ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

震災が発生してからひと月が経ちましたが、未だに収束の状況が見えてきません。特に原子力発電所の事故は、皆さん方の不安が払拭されないまま今日に至っております。今日この問題について詳しくお話したいと思います。

まず、今日の原子力災害が拡大したのは、地震でも津波の影響でもなく、菅総理の初動体制のまずさにあったからだと思います。特に、地震が起きてから、津波が施設を襲って電源喪失になったわけですが、それから8時間程度はバッテリーや蒸気タービンが作動してなんとか冷却ができていたのです。それが外部電源をつなぐことなく、全てが止まってしまったため、ベントと海水注入をしなければならなかったと言われていますが、何故これが遅れてしまったのか、その一番の原因に挙げられるのが菅総理の不用意な現場訪問であります。この問題についてはしっかりと事実関係を検証していかなければなりません。

それから原子炉建屋の爆発や汚染水の垂れ流しなど、とんでもないことが続いておりますが、今現場が一番困っているのは「船頭多くして舟陸に上がる」という言葉の通り、いろいろな会議が作られた結果、責任の所在があいまいになり、現場が動こうと思っても、動けないものが沢山あるようです。私は複数の学者や原子力の専門家の方々からお話を聞いて、彼らが共通しておっしゃるのは、現場の人間が原子炉について一番よく知っているのだから、彼らに全権

限を与えて任すべきで、政治家は彼らが必要だという仕事を、法律を改正したり、いろいろな業界に呼び掛けて調達したりするなど調整や折衝をやればいいわけで、やるべきことは現場の人間がよく知っているのです。まずその体制を確立すべきです。以上を鑑みると、菅氏が初日に原子力発電所の視察に行きましたけれど、今こそ政治家が動かなければならないのではないのでしょうか。たとえば現場の責任者が海江田氏なのか細野氏なのかわかりかねますが、彼らが現場に行って、現場で働いている方々と同じように命をかけてそこで仕事をするべきです。もちろん彼らには現場の知識はないわけですが、現場の方々が必要なものを政治の力で官邸に伝えて解決させる、そういう体制をつくれば私はもっと現場がスムーズに作業ができると思うのです。それを政治主導ということに拘泥し、いろいろな会議に逐一政治家が入って、会議をすることが目的化されているために、決定がなされず、物が進まない、そのような印象を強く受けます。まずは現場の体制を作り直すべきです。それから、これから注力しなければならないことは、よく言われるように冷却なのです。電源が回復したのであれば、その冷却系が作動して熱交換器によって強制的に冷却でき、数か月以内、数週間で健全な温度できてしまいます。その準備にどのくらいの日数がかかるのかということですが、もしそれができないのであれば、今水をかけることで冷却していますけれど、これではなかなか冷えません。下手をすると何年もかかってしまいます。その間にさらに汚染水が出たり、炉内が高温のた

めどんどん放射性の廃棄物も蒸気と一緒に排出されるわけです。それを止めるためには、汚染水の蒸気から出ている放射性廃棄物を今は電源が回復しているわけですから、そのまま大気中に出すのではなくて、フィルターを付けて廃棄物の中の放射性物質を除去するなどの対策が必要です。これは技術的に確立されたものですから、そのフィルターを設置しなければなりません。それから汚染水もそのまま垂れ流すのではなくて、汚染物質除去する仕組みもあるという風に伺っております。そのような対策をして環境にこれ以上放射性物質を出さないようにしなければなりません。これらの目途が付いてくると、原子力発電所の 30km 圏内から避難をされている方々も安心されるのですが、そういった対策ができていないことが問題だと思うのです。

それから一番問題なのは原子炉がどのような状態なのか政府が出す情報が非常に遅れており、情報量も少なすぎます。むしろ日本政府の発表よりも海外の報道から報道されることが多々あり、それが余計に疑心暗鬼を生んでいるわけです。ですから、我々は色々なところから情報を仕入れることが出来るのですが、国民を安心させる為にも、政府がもっと積極的に情報公開をしていただきたいのです。これによって、新たな知見が政府にも、対策本部にもたらされたいと思います。

つまり今、菅政権がやっていることは、情報を隠ぺいし、仕事も現場に任せず、政治が現場を混乱させてしまっている、このことに尽きると思います。そ

して初動体制の時から今までパフォーマンスばかりが先行して、まともな対策が出来ていなかったと指摘せざるを得ないと思っております。この原子力災害を収束させ、立て直していくためにも、私は菅氏を政権から出すこと以外ないと思っているわけであります。このことにつきまして4月18日の予算委員会で、私は質問しませんが、脇雅史国対委員長がしっかり質問しますので、是非ご覧いただきたいと思います。

ありがとうございました。